

## 令和3年度 門真市民文化会館及び門真市立市民交流会館 指定管理者総合評価

【評価対象年度】：令和2年度

### 施設のサービス水準の視点コメント

利用者アンケートによると、門真市民文化会館のトイレや動線等のバリアフリー化により設備への不満がほぼなくなり、また、利用者への対応において、丁寧でわかりやすい対応を心掛けた結果、利用者からの評価が良好であることが伺える。今後においても同様に文化芸術に触れる機会を創出する等サービス提供を図られたい。

### 収支状況 コメント

収入においては、緊急事態宣言の発令による臨時休館やまん延防止等重点措置による時短営業等が影響し、施設利用料金等の実績額が予算額より下回ってしまったが、施設利用数の減少により運営経費や業務委託料等が圧縮され、また、門真市社会福祉協議会の「外出自粛高齢者・障がい者等への見守り支援事業」などの助成金や新型コロナウイルス感染症対策支援金の交付により黒字にすることができている。

### 感染症対策 コメント

本市の新型コロナウイルス感染症の拡大防止にかかる要請について、職員同士の情報共有、利用者への連絡や利用料金の返金等きめ細かな対応ができていた。  
また、職員の体調管理や検温、消毒、利用者への呼びかけ等感染症対策を徹底しながら、門真市の文化が停滞しないよう、文化芸術に関わる者や市民団体、NPO団体等と連携し、助成金を得ながら多くの事業を展開したことを評価する。  
さらに、ホール利用補助金交付業務に関して、利用者へ積極的に声をかけ、利用者が安心して施設を利用できるようサポートしたことを評価する。

### 市による総合評価 コメント

指定管理者3期目となって早々、新型コロナウイルス感染拡大により臨時休館や時短営業等の対応に追われる中で、残念ながら利用率や利用収入が低下してしまったものの、利用者が安心して安全に利用ができるよう、きめ細やかなコミュニケーションをとりながら最大限の対策、配慮を行った。  
また、臨時休館期間中に始まった「折り鶴12万羽プロジェクト」により多くの人の共感を得た上に、NHKや24時間テレビ、産経新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞等の各メディアに取り上げられることによって、門真市民文化会館の認知度の向上を図ったことを評価する。  
さらに、積極的なイベント開催とインターネット配信等で市民の心の支えになるよう事業展開を行った。  
そして、関西フィルハーモニー管弦楽団の受け入れの際には、進んで調整役となり、ホームタウンパートナー協定の締結に至ることができたことを評価する。

### 総合評価

B

#### 総合評価区分凡例

- A： 協定事項等を上回る水準で施設運営がされ、大変良好なサービスが提供されている
- B： 概ね協定事項等の水準どおり施設運営がされている
- C： 協定事項等の水準以下であった